

第 68 回 日本酪農研究会 開催のご報告

日本酪農青年研究連盟（酪青研：山本 隆委員長）主催の第 68 回日本酪農研究会が、45 関係団体の後援・協賛のもと、11 月 15～17 日の 3 日間、神戸ポートピアホテルにて全国から約 320 名の参加者を集めて開催されました。

研究会では、全国から選抜された酪農家 7 名による酪農経営発表と 5 名の意見事例発表が行われ、経営発表の中から「家族・地域と共存する経営をめざして」と題して発表した中嶋仁志さん（北海道天塩郡）が最優秀賞（黒澤賞）・農林水産大臣賞に輝きました。中嶋さんは、大学卒業後、北海道職員として 10 年間の勤務を経て、平成 8 年に U ターン就農。保育士である奥様のキャリアを尊重し、省力化と経営資源の効率化を目指して経営改善に努めてきました。生産性・収益性・効率性・安全性の技術指標はいずれも良好な成績を実現し、最も完成度の高い経営であることが評価されました。優秀賞を受賞した(株)藤井牧場の藤井稔さん（北海道上川郡）は、雇用労働力 11 名、生乳生産量 5,078t のメガファームです。法人型メガファームの代表として経営能力の向上と経営成果の改善に取り組んでいます。その他にも、都府県で搾乳ロボットを導入し高い乳質と疾病予防を実現されている為金和徳さん（兵庫県姫路市）、東日本大震災の被災地である福島県にて夫婦で共同経営され、困難な状況から立ち上がり復興に取り組んでいる橋本祐子さん（福島県田村郡）など、各々特徴的な経営発表となりました。それぞれのおかれた経営環境の中で経営資源の最適化と高度化を目指し地域の仲間とともに経営改善に努力されており、出席された酪農家や関係者の皆様にとって、大変有意義な経営発表となりました。

意見事例発表では、ジェラートショップ展開による 6 次産業化を目指す方、酪農・畑作・受精師という 3 足のわらじで地域畜産を支える方等、次世代を担う後継者の方々の思いの詰まった発表となりました。

講演会では、「畜産科生徒の取組と畜産への夢」と題して、文部科学省指定農業経営者育成農業高等学校 兵庫県立播磨農業高等学校の生徒の皆さんより講演していただきました。ET 技術を取り入れた乳牛改良、鶏、ホエー豚の取組、非農家からの新規就農について等、多岐に渡る話題を深く掘り下げた内容であり、若さと活気溢れる発表に会場からは大きな拍手がおくられました。

以 上